

TPP つぼの壺

発行：全国農業協同組合中央会

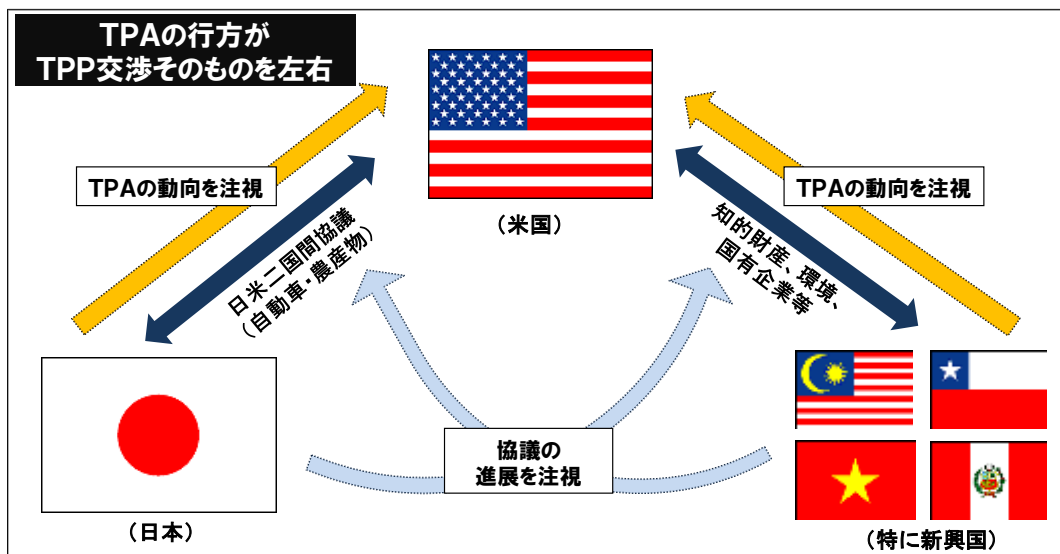
～ 米国のTPAをめぐる動向～

1. TPP交渉の鍵を握るTPA

米国以外のTPP交渉参加国は、「米国にTPA（貿易促進権限）¹がないなかでは妥結のための譲歩は行わない」との立場をとっており、TPA法案の動向が、TPP交渉合意の成否を決定付けるものとなっています。

さらに、日米以外のTPP交渉参加国は、米国のTPA法案に加えて、日米二国間協議の行方を見極めようとしています。

《TPP交渉をめぐる構図（イメージ）》



2. TPPとTPAの成立に向けて強い意欲を示したオバマ大統領

オバマ大統領は、1月20日、米国議会で一般教書演説を行い、TPPについて、「我々が（世界で最も速く成長している地域で）公正なルールを作らなければならない」と述べ、米国主導の通商ルールの確立を目指し、TPPの実現に強い意欲を示しました。



また、TPAに関しては、「アジアや欧州との間に自由で公正な協定を新たに締結し、米国の労働者を保護していけるように、TPAを共和・民主両党に求める」と述べ、TPA法案の成立を明確に求めました。

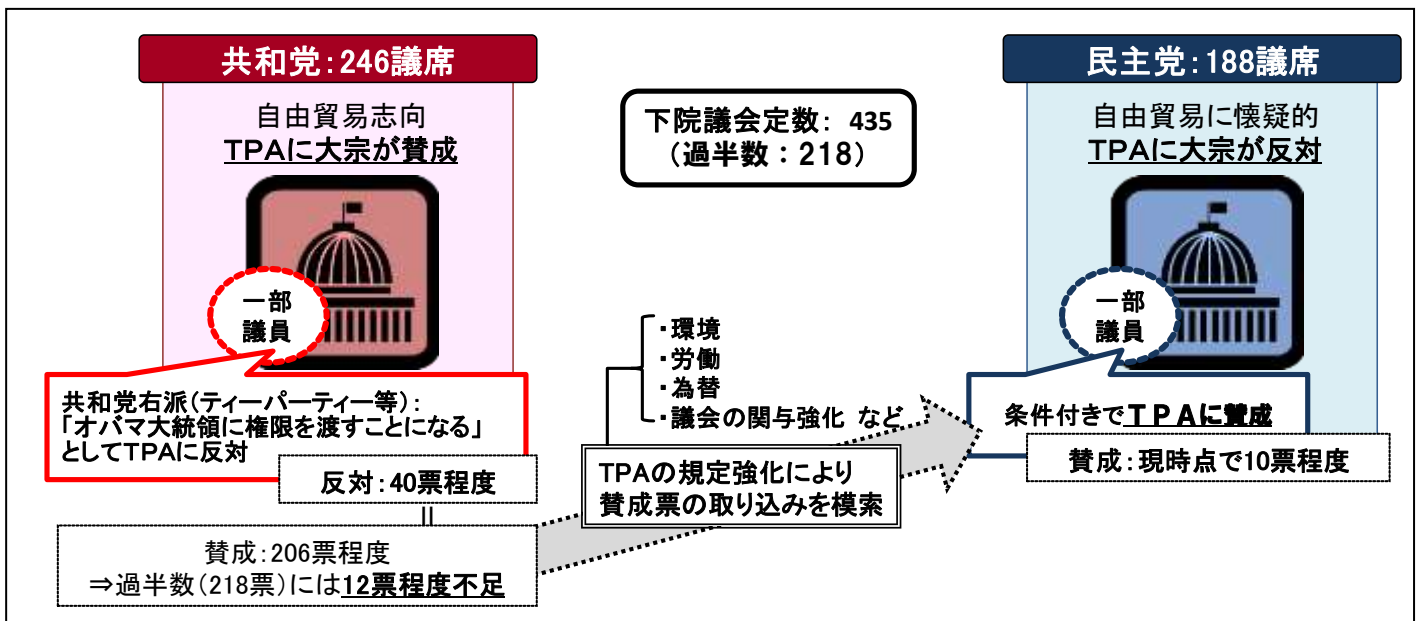
¹ TPA（貿易促進権限）については、「TPP つぼの壺（第3号）」（<http://www.think-tpa.jp/>）をご参照ください。

3. TPA法案の動向

TPA法案の提出時期については、当初、早ければ1月中と見られていましたが、2月下旬にずれ込むと報じられています。

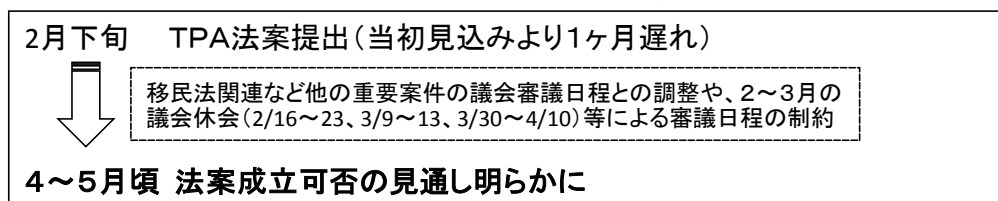
法案成立の可否について、下院では、共和党が過半数を確保しているものの、オバマ大統領への不信と反発から、共和党右派（ティーパーティー等）を中心に法案への反対が見込まれています。このため、TPA法案の成立には民主党から一定の協力を得ることが不可欠であり、現在、法案の書きぶりが調整されている模様です。

《米国下院議会のTPAをめぐる構図》



仮に TPA 法案が 2 月下旬に提出された場合、法案成立の可否は、4～5 月頃に見通しが明らかになるとされており、仮に成立となれば妥結への機運が一気に高まるとみられますが、否決となれば 2016 年 11 月の米国大統領選挙までは交渉は進展しないと想定されます。

《TPA法案に関する今後の見通し》



オバマ政権には、通商課題以外にも移民制度改革やエネルギー問題、医療制度改革等、重要課題が山積しており、これらが TPA 法案の審議にどのような影響を及ぼすかについても注目されています。